

平成26年度大阪府立吹田東高等学校 第3回学校協議会

日時：平成27年1月27日（火）

場所：大阪府立吹田東高等学校 校長室

・委員	天津 謙二	吹田市立東山田小学校 校長
	上原 達郎	吹田市立千里丘中学校 校長
	柏淵真理子	地域教育協議会 東山田地区青少年指導員会地区委員長
	城下 英行	関西大学 社会安全学部 助教
	角 美代	本校 PTA会長
	山崎 彰	武庫川女子大学 教授（今回は欠席）
校長	中田 裕省	吹田東高等学校 校長
事務局	田中 伸明	吹田東高等学校 教頭
	内田 秀司	吹田東高等学校 事務長
	池田 隆宏	吹田東高等学校 首席
	藪内 博樹	吹田東高等学校 首席
	久保 美治郎	吹田東高等学校 指導教諭

・学校協議会実施要項についての確認

保護者から学校への意見書の提出は0件であった。

・中田校長より本校が朝日新聞に掲載されたことについての説明（1月20日付けの朝刊）

・議 事

◆報告事項

（1）学校教育自己診断結果について

事務局：「生徒に対するアンケート」結果について（2学期期末考査最終日に実施）

「吹田東高校に進学して良かった。」という質問には例年通り3年生は肯定的な割合が高かった。2年生は例年低くなる傾向がある。1年も以前より低い数字になっている。原因として入試制度の影響等が考えられる。「授業」に関する質問には全般的に肯定的意見が多かったが、「授業に満足している。」という質問には肯定的な割合が若干低くなっている。特に2年生が低いのが気になる。「1学期に実施した授業アンケートで、吹田東の授業は良いものになっている。」という質問の肯定的割合は低い数値であり、教員側から生徒へのフィードバックがうまくできていない印象を受ける。「気軽に相談できる教員がいますか」という質問にも肯定的割合が低く、特に担任外は低い。今後、仮設校舎建設等でストレスが溜まる場面もあり、ストレスを受け入れる場が必要であると考えている。「学校の施設・設備」に対する質問は例年通り不満が高いが、次年度は新校舎に移るので改善が期待される。「家庭学習」に関する質問では授業以外での学習時間が1・2年では6割の生徒が1時間以内という回答であった。授業以外での勉強時間が少ないと感じている。「ホームページ」に関する質問ではほとんど見ていないという回答が多かった。入学前にはホームページを見ているという回答が多かったため、入学してから見ていないようだ。改善点として魅力のあるホームページづくりや情報が古いままということもあり、新しいものに変えるよう指示した。

事務局：「保護者に対するアンケート」結果について

「吹田東高校に進学させて良かった。」という質問には例年通り肯定的意見が多い。保護者の学校への評価は高く、学校の教育活動が理解できていると感じている。「子どもと話す機会が多い。」という質問には肯定的割合が高かった。学校の情報は生徒から保護者に比較的伝わっていると思われるが、一部偏った情報もあるかもしれない。「学校の施設・設備」に関する質問では生徒へのアンケート結果と同様、不満が高い。「進路」に関する質問では3年は約8割が進路目標をもっているが、2年生は低く、進路について迷っている印象を受ける。自尊感情をもたせることで進

路が見つかることができると考えている。「ホームページ」に関する質問は生徒へのアンケートと同様低い。その中でも「ホームページでの校長通信は見ている。」という意見もあった。「規則正しい生活を送っている。」という質問では肯定的な割合が高かった。本校生は遅刻も少なく、保護者も努力をしていると感じている。記述式アンケートでは3年生の保護者から学校の厳しい指導に感謝している意見が多かったが、1・2年の保護者からは学校の厳しい指導に対して否定的な意見もあった。1年生は全体的に入学前とイメージが違うという回答が多かった。女子からは男子が幼稚という意見もあった。

事務局：その他の結果について

教職員に対しても学校教育自己診断のアンケートを実施しているが、昨年度より改善したが、約70%の回収率にとどまっており、回収率が少ないのが気になる。その中に「時間的にゆとりがなく、教員間（特に若手とベテラン）のコミュニケーションがとる場がない。」や「学年や担任団ではまとまるが、教科として縦断的な繋がりが少ない。」という意見があった。8割以上の教員が本校の教育活動に理解している。生徒と保護者の記述式アンケートは個人が特定されないように配慮しながら全教員に配付した。

また、3年には3年間の経年変化した表を担当団に配付した。

委員：経年変化の特徴は

事務局：2年生が下がる傾向にある。

(2) 授業アンケートの結果

事務局：昨年度から府立高校で年間に2回、授業アンケートを実施することになった。第1回目は1学期の終業式で、第2回目は2学期終業式に実施している。本校はそれに加え、2学期中間考査後に記述式アンケートを実施している。

質問項目は9項目で、座学授業と実技授業で質問内容を変えている。生徒は1～4で答える。(4よくあてはまる 3ややあてはまる 2あまりあてはまらぬ 1まったくあてはまらない)
集計算出法として $\{4 \times (4 \text{の回答数}) + 3 \times (3 \text{の回答数}) + 2 \times (2 \text{の回答数}) + 1 \times (1 \text{の回答数})\} \div \text{全回答数}$ で算出している。結果は個人別と学年別と教科別に返ってくる。平均2.8以上は最低の達成目標に設定している。1年生は2学期以降も入学時の緊張感が持続できており、授業内容が難しくなっているにも関わらず、ついてきている。教員の授業改善の取り組みも評価されている。2年生は進級時の緊張が解けクラスになじんできた。そのせいかどのポイントも下降気味である。3年生は教員の授業改善の取り組みが評価されており、進路が決まっても気を緩めることが少ないが、早く進路が決まって緊張感に欠ける生徒もおり、少し差が出てきた。各教科とも昨年度より少しポイントが上がっている。特に教材活用の面ではICT機器の活用する教員の取り組みもあり、上昇傾向にある。仮設校舎では全教室に電子黒板が備え付けられるので、それらの活用が今後の課題である。

(3) 府立学校に対する指示事項についての説明

事務局から次年度の重点目標についての説明を行った。詳細は2月に教員へ配付される予定。

◆協議事項

(1) 自己評価を踏まえた学校関係者評価及び次年度の学校経営計画について

平成26年度 学校経営計画及び学校評価を基に議論

事務局から学校教育自己診断の結果と分析・第1回と第2回の学校協議会の意見についての説明。

(別紙参照)

事務局から39期生の進路結果についての中間報告。近畿大学が昨年度の数字を超えた。

事務局から中期的目標に関する項目についての達成度合いの確認

事務局：教育相談の充実が大事であり、「相談できる先生がいる」の肯定的回答率を上げる必要がある。行事についても改善が見られるが、根本的な改善が必要。部活動の加入率は上がっている。仮校舎建設・移転に関しては今のところ不備はない。

委員：どの数値も伸びていることはいいことだと思う。

委員：2年生がどのデータについても低いのが気になる。対策が必要ではないか。

委員：2年生の生徒の状況はどんな感じですか。問題行動はないのか。

事務局：特に懲戒件数が多い訳ではない。外部模試の受験者も増えている。教員の講習やS講座の参加率は少ない。「担任に気軽に相談できる。」という質問の数値が低いのが気になる。

委員：今の2年生が3年生になってからどうなるのかが大切である。教員の講習やS講座に参加した生徒は肯定的な意見が多い。

委員：体育祭や文化祭に参加している生徒が多い印象を受ける。部活に制約がでるかもしれないが、不安が出ないような取り組みが必要である。また、クリーンキャンペーンなど地域とコミュニケーションがとれる機会が増えたらいい。

委員：1年のS講座は参加率が高いが、満足度が低い原因は。

事務局：例年、9月から実施しているが、今年度は4月に募集をして回数を増やしたが、生徒の意欲が持続しなかった。また、参加人数も120名であり、1クラス40名になりやや人数が多いと感じている。

委員：オーストラリアのマジー高校との交流があり、生徒へのアンケートで「異文化理解の取り組みが充実している」数値がかなり上がっている。

委員：3年生が1・2年生に自校のことや自分の高校生活を語る機会があればいいと思う。生徒目線から伝えることが大事である。例えば、大学、短大、専門学校など進路別で行う提案したい。また、2年生がどの数値も下がる傾向にあるが、2年生だけでなく、3学年全体でてこ入れをする必要があると感じる。

事務局：海外留学した生徒は帰国してから英語の成績も上がり、行動も良い方向に変わったと言われることが多いという声があった。

委員：2年生になると学校生活に慣れて、部活動で中心になるので勉強との両立が難しいが、部活動を頑張ることが最終的に良い結果に繋がると思う。

委員：1年生は規則が厳しくおとなしい印象。2年生は学校生活に慣れてつまらないという意見がある。

委員：3年生は経験談を前向きな気持ちで話してくれると思う。数年間、協議会の委員をしているが、年々遅刻が減少していることは驚異的だ。生徒に遅刻の減少を紹介しているのか。

事務局：今まで紹介していない。今後、機会があれば紹介していきたい。

平成27年度の中期的目標（案）についての説明

概略は中期的目標として新しい校舎への建て替えの機会を生かし、吹田東高校の組織的な教育活動の確立を目指す。（別紙参照）

事務局：中期的目標に関しては教員からの校長への提言シートも参考にしている。組織として取り組むことが大事である。数値を極力入れるように府教委から要望されている。

委員：欠席の目立つ生徒の割合は。

事務局：それほどいない。集中的に休む生徒は教育相談の対象にしている。

事務局：いただいた意見を参考に学校運営をしていきます。